研究の概要

大宮小学校

【研究主題】

『もっと知りたい・伝えたい』

～自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童の育成～

Ⅰ　研究主題について

１　今日的課題

新学習指導要領の移行措置期間が終わり、本年度から、小学校３・４年生対象に「外国語活動」が年間３５時間、５・６年生対象に「外国語」が年間７０時間、全面実施されることになる。

新学習指導要領の「外国語活動」の目標の文末をみると、「～ようにする」と記述されており、「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」ことが培う資質・能力の一つとされている。一方、「外国語」の目標の文末は、「～できるようにする」と記述されており、英語に慣れ親しむだけではなく、「英語を使って〇〇できるようになること」、つまり「語彙や表現の定着」が求められている。こうした状況を踏まえ、コミュニケーション能力を高める授業改善の取り組みを活性化していくことが重要であると考える。

外国語活動

目標：**慣れ親しみ**

～する。～ようにする。

「やってみよう！！」

Let’ｓ try!!

→

外国語

目標：**語彙・表現の定着**

～できる。～ようにする。

「できるようになろう！！」

We can!!

２　児童の実態から

本校の子どもたちは、与えられた課題や仕事にも真面目に取り組むことができ、上級生が下級生に優しく、接している姿が多く見られる。しかしながら、自分から進んで挨拶ができなかったり、コミュニケーションが上手くとれずに自分の気持ちが伝えられなかったりと、主体的に行動できず、相手やその場に応じた行動ができない実態があった。

その実態から、昨年度は、研究主題を「もっと知りたい・伝えたい」～自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童の育成～として、人権教育と外国語活動・外国語の２点に絞って取り組んだ。

〇人権教育の視点から

自分のこと、友だちのことをもっと知りたい。そして、自分の考えや気持ちを伝えたい。

〇外国語活動・外国語科の視点から

外国のことや外国語のことをもっと知りたい。そして、自分の考えや気持ちを伝えたい。

その結果、人権教育においては、「自分の思いや考えを伝えられる児童が増えた」「子ども自身の思いを伝えることで、互いを知り合うことができていた」という成果があげられた。しかしながら、外国語活動、外国語科では、児童の実態調査において、外国語を話せるようになりたいと思っている児童は９割を超えているものの、英語を話すことが好きだという児童は６割程度という実態が明らかになった。話したい気持ちはあるが、恥ずかしさや自信のなさから、英語で進んで話しかけることができない児童が多く、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が十分に養われていないことが考えられる。

そこで、本年度は、「もっと知りたい・伝えたい～自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童の育成～」という研究主題は変えず、外国語活動・外国語に絞って研修を進めていきたい。そして、特に「話すこと」において、既習事項を繰り返し活用する場面を設けるなど、対話を続けるための表現・手立てを指導し、子どもたちが「知りたい」「伝えたい」という思いを育む授業づくりを目指していく。

Ⅱ　目指す児童像および研究仮設

１　目指す児童像

自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童

２　研究仮説

既習事項や慣用表現を繰り返し聞いたり話したりする場面を設定し、対話を続けるための工夫をすることによって、児童は自信をもってやりとりができ、自分の思いや考えを伝え合うだろう。

Ⅲ　研究の内容

１　基礎研究

・各種答申等の分析（小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックなど）
・外国語・外国語活動の研究発表会に進んで参加し、先進校の指導方法を学ぶ。
・外国語科・外国語活動における授業づくりや児童の意識把握等のため、児童と教員の実態調査及びその分析を行う。

２　具体的な手立ての構想

ア　授業の構成

・①Greeting、②Warming Up、③Today’s Goal、④Activity、⑤Reflection、⑥Closing の学習課程プレートを作成する。
・①～⑥の６つの学習課程を基本としつつ、指導計画によって工夫を加える。
・Activity の中に Sharing　Time(中間交流)を入れて、困ったことなどを解決させたり、良かったところなどを共有させたりする。
・目的意識をもたせ、単元ゴールを明確化させる。

★指導のポイント★

Today’s Goal において、児童に本時のめあてをつかませる。 Reflection において、児童に何を学んだのかを自己の学習を振り返らせる。

イ　対話を引き出すための指導を工夫

・授業の中に積極的に Small Talk を入れる。
・自分自身の本当の考えや気持ちを伝え合わせる。
・児童の興味関心のある身近な話題を選んだり、実際の場面を設定したりする。
・児童がこれまでに学習した基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする中で、既習表現を活用できるようにする。
・活動の後は、“High Five”　をしたり“Good job！”や“Nice！”などとお互いを褒め合ったりする。
・会話を続けられるような表現を段階的に加える。

Ex.　Oh,・・・！（Repeat）など相手の回答を繰り返したり、I see.　Nice.　Me too.（Reaction）などのあいづちを打ったりする。

「コミュニケーション要素」から　　　　　　　　「言語要素」へ

低学年 ↓ 中学年

Listen carefully
Clear Voice
Eye Contact
Smile
Gesture

大切にしながら →

※
★Repeat
★Reaction
★Echoing
★Question & Answer

高学年 ↓ 中学校

※★Repeat

A: I like apples.
B: Oh, apples.

★Reaction

I see.　Nice.　Me,too.　Not me.　Good.　Really?　Pardon?

★Echoing

A: I　like　apples.
B: I see.　You like apples.

★Question & Answer

A: What furuits do you like?
B: I like apples .
A: Oh,you like apples. Why?
B: Because it's sweet and delicious.

★指導のポイント★

子どもたちが表現したくなる場面を作り出すこと
教師も自分のこと（考えや気持ち）を表現すること

↓

子どもたちが
「コミュニケーション活動が楽しい」と感じ、
「英語で気持ちを伝えられた」という達成感を味わえるように。

ウ　「書くこと」の活動を工夫

・音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や表現を書き写す。

・自分の気持ちや考えに合った語彙を選んで書く。

3　実践研究

・研究のために、課題を客観的に把握するため、先行授業を実施する。さらに、課題解決に有効な手立て等を検証するため、研究授業を実施する。

・中学校への接続を意識し、小中交流会をもつ。

・出前授業をしてもらい、新たな気付きやヒントを得る機会をもつ。

4　研究のまとめ

・児童の振り返りカードや見取った児童の活動から授業の分析を行い、手立ての有効性について考えする。

・研究授業における成果と課題をまとめ、さらなる向上をめざす。

Ⅳ　研究構想図

学校教育目標

自ら学び　心豊かで　しなやかに生きる子どもの育成

【外国語活動】　【聞くこと】【話すこと】の２領域

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する。

【外国語科の目標】　【聞くこと】【話すこと】【読むこと】【書くこと】の４領域

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する。

【児童の実態】

・外国語の学習は好き。
・もっと外国語を話せるようになりたい。
・自信がない。
・発音の仕方や言葉が分からない。

【目指す児童像】

自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童

【教師の実態】

・クラスルーム・イングリッシュを使用。
・ALT と協力（ミーティング）。
・リアクションが小さい。
・コミュニケーション力を意識した指導、手立てが必要。

【研究主題】

『もっと知りたい・伝えたい』

～自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童の育成～

【研究仮説】

既習事項や慣用表現を繰り返し聞いたり話したりする場面を設定し、対話を続けるための工夫をすることによって、児童は自信をもってやりとりができ、自分の思いや考えを伝え合うだろう。

【研究内容】

○基礎研究　　○実態調査と分析　　○具体的な手立ての構想
○研究授業の事前検討・事後検討　　○成果と課題の整理

Ⅴ　研究方法

1　研究組織

校長

教頭

人権教育推進委員会

研修推進委員会

校長　教頭　研修担当　研修推進委員

特別支援教育推進委員会

全体会

低学年部会	高学年部会
1 年担任 2 年担任 3 年担任 わかあゆ 養護教諭	4 年担任 5 年担任 6 年担任 専科 栄養教諭

低学年部	中学年部	高学年部
1 年担任 2 年担任 わかあゆ 養護教諭	3 年担任 4 年担任 栄養教諭	5 年担任 6 年担任 専科

2　外部講師の招聘について

・研究授業後の検討会には、度会郡指導主事室指導主事を招聘する。

３　研究の計画

月　日	曜日	研修形態	研　修　内　容	備　考
４月１５日	水	全体会	今年度の研修について・エピペン	
４月２２日	水	全体会	道徳教育・特別支援教育について	
５月１３日	水	全体会	第３・４学年外国語活動事前検討会	
５月２０日	水	全体会	職員会議・教務研修	
５月２７日	水			
６月　３日	水	×	郡教研	
６月１０日	水	全体会	第４学年研究授業・事後検討会	
６月１７日	水	×	職員会議	
６月２４日	水	全体会	第３学年研究授業・事後検討会	
７月　１日	水			
７月　８日	水	個人	アンケート実施とまとめ	
７月１５日	水	×	個別懇談会	
７月２２日	水	×	デイキャンプ	
７月２９日	水		第２・５・６学年指導案検討会	
８月　５日	水		第３・４学年指導案検討会	
８月１２日	水	×	学校を閉める日	
８月１９日	水		働き方改革研修	
８月２４日	月		情報教育研修会	職員会議後
８月２６日	水		研究紀要の検討会	
９月　２日	水		第１学年指導案検討会	
９月　９日	水		第 2～６学年最終指導案検討会	
９月１６日	水	×	職員会議	
９月３０日	水		人権作文について	
１０月　７日	水		最終指導案提出、印刷開始	

１０月１４日	水	×	職員会議	
１０月２１日	水	全体会	第１学年研究授業・事後検討会	「仲間づくり」 で公開
１０月２８日	水	全体会	研究発表会の確認事項・準備など	
１１月　６日	金	全大会	研究発表会第２学年～第６学年	町指定
１１月１１日	水	個人	成果と課題	
１１月１８日	水	×	職員会議	
１１月２５日	水	×	町教振一斉部会	
１２月　２日	水			
１２月　９日	水	×	職員会議	
１２月１６日	水			
１２月２３日	水			終業式
１月１３日	水	×	職員会議	
１月２０日	水	全体会	専科指導案検討会	
１月２７日	水	全体会	人権教育の授業について	
２月　３日	水			
２月１０日	水	全体会	専科研究授業・事後検討会	
２月１７日	水	個人	アンケート実施とまとめ	
２月２４日	水	個人	１年間の成果と課題	
３月　３日	水	×	職員会議	
３月１０日	水	全体会	成果と課題まとめ	
３月１７日	水	全体会	来年度の方向性	
３月２４日	水	個人	研究紀要作成	

４　指導案検討会と事後検討会の持ち方について

・指導案検討会は、プレゼンテーションの形で行う。

Ⅵ　研究の内容